

【クロス完全オリジナル】育児の弱点を浮き彫りにさせる「家庭環境の診断基準」

使い方

下記の診断基準は、複数の論文を元に作成し育児コンサルで使用している基準を家庭用にアレンジしたものです。

また、この診断基準は質問項目として使うのではなく、ヒアリングを通じて満たしている条件を一つ一つ特定し、改善点を浮き彫りにすることが目的です。

クライアントの精神的な余裕、夫婦関係、家庭の事情、性格特性などを考慮した上で慎重にヒアリングを進めます。

直接クライアントに診断基準を見せることはありません。

【注意が必要な家庭環境】

以下の診断基準 B、C、は実践していないことが望ましいです。

もししてしまっている場合、子供の発育に悪影響を与えます。場合によっては、感情の調節、衝動性の調節、対人関係能力の低下などが5歳の時点で特徴として現れやすい傾向にあります。

● 診断基準 B

- 過度に厳格、拒絶や拒否、時に極端に甘やかし時に極端に拒絶する一貫性の欠如、などの育児

● 診断基準 C

- 過度に過干渉、過保護、矛盾の正当化などの育児

【望ましい家庭環境】

以下の診断基準 A は、**実践していること**が望ましい行動です。

もし実践できている場合、**5 歳**の時点で**良好**な対人関係能力、衝動性の調節、感情の調節を**獲得**していることが多いです。

10 歳の時点では、**学力にも良い影響**を与えられていることが分かっています。

● 診断基準 A

○ 以下のうち4つ（またはそれ以上）が、少なくとも**6 か月持続**する家庭環境

1.全くそう思わない 2.あまりそう思わない 3.そう思う 4.とてもそう思う

- 1.基本的に基本的に子供の所属欲求や甘えを満たすためにハグ、くすぐり遊びなどをしている
- 2.基本的に子どもが本人自身のありのままを受け入れられるように**私メッセージ**を使っている。
- 3.基本的に結果だけでなく、**プロセスや努力**も褒めている
- 4.基本的に**間違った12の対応**を使わないように意識している
- 5.基本的に罰を与える場合、特権を**期間限定で取り上げる**か、タイムアウトを活用している
- 6.しばしば子供に家庭の問題の解決やルールの**立案に参加**をさせている
- 7.しばしば子供の情緒の安定のために子供の感情に対して**ラベル貼り**を手伝っている
- 8.しばしば子供が親を信頼できるように**能動的聞き取り**を行なっている

※下線部の専門用語は別の学びがあります。